

戰時經濟ニ於ケル企畫的資金ノ需要ハ大口トナリ、之ヲ調達ニハ金融機關ノ機能ヲ充分ニ活用セシメネバ之ニ即應スルコトガ出來ナイコトハ前述シタトコロデアツテ、即チ浮動資金ヲ金融機關ニ集積セシムルコトガ根本デアアル。斯クシテ大規模トナリツ、アル産業資金ヲ賄ヒ又公社債ヲ消化スルノデアアル。或ハ公社債大衆化ノ建前カラシテ、直接民間個人消化ニ期待スル向モアルガ、大量ノ直接消化ハ到底困難デアアル。況ンヤ個人ニ保有セシメタ公社債ハ、一定目的ノ爲メニ開カレタ換金流通ノ路ヲ亂用シテ轉賣ガ行ハレ易イ。金融機關ガ一度買入レタ公社債ハ大量デアリ又統制ガアルノデ無闇ニ轉賣サレ流動化スルモノデハナイ。斯クテ民衆ノ預貯金ハ金融機關ヲ通ジテ長期化スルコトニナルデアアル。

世間ニハ金融ノ末節ノコトデアルトシテ斯界ヲ蔑視スルノ言辭ヲナ

舊思想デアリ因循姑息デアルト云フ意味ナラバ之ハ人物評デアルカ  
ラ勝手タルベシダガ、事苟モ國家經濟上ニ於ケル金融政策其ノモノ  
ノ輕重ヲ云々スルノデアルトスレバ、ソレハ甚シキ不明デアアル。素  
ヨリ今日ノ金融界ニ對シテ是正改善ヲ要望スベキ點ハ尠クナイ、又  
將來時勢ニ伴フテ當然金融界モ變化シテ行カネバナラナイ。  
戰時下金融機關ノ使命ガ資金吸收部面ニ於テ其ノ重要性ヲ増加シタ  
コトハ自然ノ趨デアルガ、資金集積ノ實績果シテ如何。金融市場ハ  
近來漸ク窮屈ノ状態ヲ持續シ、銀行ノ手許ハ殊ニ金繰算段ニ追ハレ  
テ居ル。公債消化ノ裏ニハ日銀貸出ガアリ、期末決算ニ現ハレタ  
ル預金ノ計數ハ翌日即チ期ヲ越セバ忽チ著減スル。此ノ現象ヲ何ト  
見ルカ。

一、戰爭ハ經濟力ノ實質的增強ヲ要スルコトハ勿論デアツテ、作爲

の計數ニ依テ糊塗スル譯ニ行カヌ。餘程ノ事情ガナイ限り修飾  
工作ハ繰リ返スベキデナイ。不知不識捨收スベカラザル深ミニ  
陷ツテ胡魔化シガツカナクナツタラオ終ヒデアル。此ノ九月末  
ニ於ケル銀行ノ計表面デ預金ガ急増シ翌日ハガタ落ちニナツテ  
居ルノハ果シテドウカ。公債モ銀行ノ買入高ハ事實頗ル振ツテ  
居ナイ。元來戰時下ニ於テ公債消化高トカ通貨發行高トカ其ノ  
他重要計數類ヲ公表スルコトノ如何ニツイテハ檢討シテ見ルノ  
必要ハナイノデアラウカ。

2、  
銀行當局者ハ實情ノ變化セルニ拘ラズ今尙自由經濟時代ノ舊慣  
ニ執着シテ依然トシテ大口資金吸收ニ多ク着眼スル傾向ガ存ス  
ル。例ヘバー工業會社ニ纏マツタ資金ガ入ツテ來レバ十指ニ餘  
ル銀行ガ相争フテ之ヲ自行ニ預入セシメントシテ盛ニ會計主任  
ニ運動スル。然モ此ノ種資金ハ貯蓄性ヲ帶ビタルモノデナク、

工井ハ懸リ張スヘキヤト。不味不備餘効スヘキヤハ弊ヲク  
小口大衆預金ノ貯蓄的集積ニ努力セヨ。之ハ大口預金ニ眼ヲ着  
ケルヨリモ手間ハ煩サイデアラウガ、其ノ國策的意義ニ於テハ  
頗ル重且大ナルモノガアル。

3、  
銀行ハ大衆トノ接觸ヲ氣輕ナラシムルコトニ努ムベキデアル。  
店舗ノ堂々タルヲ以テ看板トスベキ時代デハナイ。寧ろ簡易店  
舗ノ行キ渡ルコトヲ得策トスル。曩ニ預金吸收ノ方針ニ沿ヒテ  
カ知ラヌガ矢鱈ニ銀行支店ノ増設ガ認メラレタ。トコロガドノ  
銀行モ取引上便利ノヨイ地域ヘト集マツテ來タカラ軒並ニ銀行  
ノ店舗ガ出來テ競争激甚、預金ノ爭奪橫流レガ目ニアマル所ガ  
發生シタ。最近方針一轉、當局ハ銀行店舗ノ廢止ヲ考ヘ出シタト  
云フ。無駄ナ店舗ノ廢止モヨカラウガ、ソレヨリモ今日ノ如ク  
預金吸收ノ要切實ナル際ニハ店舗ノ配置殊ニ大衆層ニ對スル接

銀行ハ大衆ノ對ニ廉價ニ貸出ルベシトノ聲サヘ聞エ  
ル。大衆層ヲ目標トスル新規ノ金融機關ヲ作ルベシトノ聲サヘ聞エ  
ル。

ハナカラウカ。近來職工等ノ懷口ハ現金ヲ持チ過ギテ居ルト云  
ハレル。大企業ノ工場ハ銀行ノ簡易店舗ヲ置イテ親切ナ取扱ヒ  
ニ依テ是等ノ現金ヲ預ルベキダト云フ意見モアル。又尙進ンデ  
大衆層ヲ目標トスル新規ノ金融機關ヲ作ルベシトノ聲サヘ聞エ  
ル。

4、銀行ガ其ノ手許金繰リノ都合上一時日銀ニ貸出ヲ仰グコトハ當  
然デアリ。是迄大銀行筋ガ体面上無理シテマデ日銀ニ貸出ヲ求  
メマイトシタ謬見ハ漸ク薄ライデ來タ様デアルガ、最近ハ之ガ  
又行過ギテ銀行ガ其ノ貸出ノ源泉ヲ日銀貸出即チ通貨發行ニ求  
メントスル情勢ニアル。換言スレバ日銀貸出ハ固定的トナツテ  
來タコトハ、昨年末來ノ日銀貸出ガ返濟サレナイノミカ著シキ速  
度デ漸増シテ居ルコトヲ見レバ這般ノ消息ハ了解セラレルノデ

大衆層に目撃イヌハ薩賊ノ金觸繼關ニ非ハシイノ事ヲ聞エ  
ニ對テ是等ノ賤金ニ取ルハキヤイ云々意見ヲテハ。又尙並ニモ  
ハシム。大企業ノ工場ハ銀行ノ簡易取替ニ置テ賺得セズ  
デハナイ。勿論生産擴充ヲ急務トスル現段階ニ於テ通貨發行ノ  
漸増ハ已ヲ得ナイトシテモ、産業資金ノ放出ハ即チ通貨増發ナ  
リト云フ定理ハナイ。金融業者ハ極力浮動資金ヲ吸收シテ通貨  
發行ノ増大ヲ調節スベキ國策的的使命ヲ有スルモノデアアル。  
現ニ大銀行ニシテ既ニ數億ノ資金ヲ日銀カラ借り入レ、之ヲ放  
資シテ利鞘ヲ取ルコトガ慢性的ニナラントシテ居ルモノガア  
リ、其ノ中ニハ最早此ノ上日銀ニ提供スベキ正常ノ質草サヘモ  
ナクナル位ニ借金シテ居ル銀行モアル。今後ノ重大ナ懸案トナ  
ラネバヨイガト思ハレル。

5、  
以上ノ如キ實情ニアリナガラ銀行當局者ノ間ニ多額ノ産業資金  
ヲ特殊機關ヲ經由シテ間接ニ供給スルヲ以テ物足ラストシ、放  
資ノ企畫サレルコトハ先ヅヨイトシテ、企業ニ對シ直接自行カ

與ニ大膽行ニシテ豫ニ熾盛ノ資金ニ日驗式ヲ計入ノ文ニ就  
幾許ノ餘大ニ騰騰スルニ手固策由對命ニ育スル子ノマテハ。  
レイ云々家照ハセト。金蠅業者ハ蘇氏等博資金ニ如クシテ  
漸進ハ口ニ尋セトイシマ子ノ直業資金ノ貸出ハ唱マ置賞餘幾セ  
金ノ使用面ニ對スル監視ガ出來ナイト云フ。現ニ目下大銀行ガ  
日銀カラ巨額ノ借入金迄シテ産業貸出ニアセツテ居ルノハ、右  
様ノ方針ガ實現サレタ場合ノ実績ヲ作ツテ置ク下心デアルトサ  
ヘ云ハレテ居ル。是等銀行當局者ノ中ニハ其ノ戰時的ノ貸出タ  
ルノ所以ヲ以テ直接貸出ニモ政府又ハ特殊機關ガ保證セヨトノ  
主張モアル。是迄ノ時勢ノ動向カラ見レバ資金供給部面ヲ複雑  
化スルヨリモ寧ロ資金放出機關ノ統合ニヨリテ之ヲ簡單化スル  
ト云フ方向ニ動イテ來タガ、前述ノ如キ最近擡頭シテ來タトコ  
ロノ直接融資ノ主張ハ此ノ動向ノ轉換ヲ意味スルモノデアアル。  
右主張ノ動機ハ金融資本ガ産業ヲ支配セントスル舊思想ノ顯ハ  
レデアルト批判スルモノガ、ソレハ兎モ角トシテ其ノ得失ハ國  
策的見地カラ慎重ニ檢討キレネバナラヌコトハ申ス迄モナイ。

ハハ視以て以て直對貸出ニテ廻流又ハ轉經對關也對需チロイハ  
ヘ云ハハテ思ハ。是等賒行當鼠蒼ハ中ニハ其ハ彈却始ハ貸出々  
對ハ式檢也實賒セハ對合ハ實對ハ對ハテ置々不心テハハイセ  
日賒也ハ互賒ハ對人金送々テ直業貸出ニテサハハ思ハハハハ  
次ニ各軍需會社個別的ニ夫々其ノ取引銀行ヲ指定セシムベシト  
スル論モアル。其ノ趣旨ガ日常ノ金繰リ乃至出納ヲ取扱ヒ旁該  
會社ノ經理關係ヲ監視セシムルニアリト云フノナラバ一理ハア  
ル。然シナガラ當該軍需會社ノ全体的資金計畫ニ基キ所要資金  
ヲ一手デ指定銀行ガ賄ヘト云フノナラハソレハ大部分ハ出來ナ  
イ相談デアアル。蓋シ一銀行ハ數個ノ軍需會社ニ關シテ指定銀行  
トシテ指定サレルデアラウガ會社所要資金ノ規模ガ著シク巨大  
トナツテ居ル今日、一銀行ノ手許ヲ以テシテハ到底其ノ所要ニ  
應ジキレル力ハナイノデアアル。  
ソレデ此ノ場合ニ指定銀行ハ當該會社ノ爲メニシンヂケートヲ  
設ケラレルコトニナリ、シンヂケートノ紐帶ハ相交錯シテ金繰  
リハ入り亂レルコトニナリ、金融統制上ノ複雑性ヲ増スコト一  
通りデハアルマイ。ソレヨリモ資金供給ノ部面ニ於テハ、各銀



一、二年に計安驗計代報へイ云てハ七マ、ハ大陪公ハ出來セ  
ハ。然レセ代々當藉軍需會挿ハ全朴由資金情盡ニ基キ祖要資金  
會挿ハ盤駢關斜ハ盪跡チムムハニテ、イ云てハ七マハニ駢ハて  
スハ舖子てハ。其人職官代日常ハ金懸、氏至出離、軍財、榮籍  
ツタ時ハ、此ノ共同プールニ調達方ヲ申込ムコト、デモスル方  
ガ簡單デハアル。然シ何レニシテモ戰時金融金庫ヤ日本興業銀  
行ノ立場ニ就テノ問題ハノコル。

6、

由來金融界殊ニ銀行業ハ組合等ガ夙ニ組織サレテ表面機構的發  
達ヲ示シテ來タノデアアルガ、當業者間ノ事情ノ内實ヲ檢討スレ  
バ個々別々デ纏マツテハ居ラナイ。各自ノ立場ト利害ニ敏ニシ  
テ融合協力ノ素質ハ薄弱デアルトノ批評ガアルノハ遺憾ナコト  
デアアル。又銀行界ニ於テ時局ノ推移ニ伴フ機能發揮ノ重點ノ變  
化ト云フコトヲ考ヘナイデ、徒ラニ其ノ業務ガ機械的ニナツタ  
トシテ悔ムガ如キ謬見ハ聞キ度クナイモノデアアル。舊思想ハ斷  
ジテ艾除シナケレバナラヌ。

又昨年カラ發足シテ金融統制會ナルモノモ其ノ下部組織迄多數且仰山ニ

由來金融界ニ聯合會ハ聯合會ニ歸シテ表面辦理  
立憲ニ趨クハ問題ハハコト。然レテ子嬭金蠟金蠟日本興業  
殊ニ金融業種別統制會ナトハ大シタ仕事ハナク餘計ナモノダト  
云フ批評ガアリ、寧ロ全國統制會ノ一本デ統制ヲ行キ渡ラセルコ  
トガ實際ニ適スルト云フ聲モ高クナツタ。若シ下部組織ヲ設ク  
ルナラバ、地方行政協議會ノ様ニ其ノ同一地域毎ニ地方金融協  
議會ヲ作り、其ノ本部ヲ前者ノ本部ト同一地ニ置イテ中央統制  
會ノ指導ノ下ニ地方行政協議會トモ相互ニ聯絡協力ヲ圖ルコト  
ガ有意義デアルト云フ見方モアル。

7、金融ニ關スル諸機關ノ聯繫ヲ如何ニスルカ。監督官廳トシテモ  
大藏省、農商省、運輸通信商等夫々ノ配下ニ金融機關ガアル。  
金融統制會ノ指導權ハ全部ノ金融機關ニ對シテハ及バナイ。此  
處ニ又、研究ヲ要スベキ問題ガ提供サレテ居ルノデアアル。  
8、國庫收支ガ巨額トナリ戰時金融上重大ナ勢力ヲ持ツニ至ツタ現

イハ實額ニ敵スハ云々。苦々不暗懸懸ニ  
云々。其ノ率口全園録開會ハ一本ヲ録開  
ニ於テハ其ノ操作上ニ意ヲ用フルコト  
政府前渡金ノ活用ノ如キモ金融政策上決シテ輕視スベキモノデ  
ハナイ。

9、最後ニ現行預金ノ制度ハ餘程巧妙ニ考案サレタモノカモ知レヌ  
ガ、其ノ種類ガ非常ニ多數デアリ、又其ノ課稅率トノ關係ガ頗  
ル複雑デアル。手ヲ代ヘ品ヲ代ヘシテ預金ヲ勸誘スル場合ニハ  
方便上預金ノ多樣多種デアル方ガ都合ガヨイト云フモノモアル  
ガ、實際斯程ニ複雑シタ手數ヲカケル割合ニ其ノ實果ハ擧ラナ  
イ。今後ノ方向トシテハ寧口預金種類ヲ簡素化シテ之ガ吸收ノ  
徹底ニ努力スルコトガ時局下人手ヲ善用スル所以デハナイカト  
云フ見解モ生ズルノデアル。

要スルニ國家財政ノ必然的膨脹ト云ヒ、國防産業充實ノ老ナナル  
計畫ト謂ヒ、金融界ニ負荷セラレタル責務ハ愈々重大デアル。

其ハ蘇聯ハ非常ニ多量ニ行テリ、又其ハ蘇聯率イハ關稅ハ  
景翁ニ與テ貯金ハ歸吏ハ繪跡ハ此ニ等案セシメテハ  
ハヤト。  
以上ハ專ラ國內通貨金融政策ノ觀點カラ數個ノ問題ヲ抽出シタ次第  
デアツテ、大東亞乃至國際的見地ヨリスルモノハコ、ニハ觸レナイ  
コトニスル。

○產業界ニ於ケル二三ノ話題

翻ツテ產業方面ヲ觀ルニ軍需生産ノ增強ヲ要スルノ急ナルコト實ニ  
今日ヨリ重大ナル時ハナイ。産業人モ其ノ覺悟ガアラウシ又他ノ各  
職場ハ產業界ノ成果昂揚ノ爲メニ全力ヲ擧ゲテ協力スル。本來事業  
界ハ本能的ニ其ノ積極性ガ動クモノデアアル爲メニ時流ニ良ク受ケラ  
レ易イ性質ノモノデアアルガ、サリトテ斯界ハ果シテ自由經濟時代ノ  
算盤主義ニ囚ハレズ純眞ニ國策ノ爲メニ討死スル心構ヘノモノバカ  
リデアアルト謂ヘヨウカ。或ル方面ノコトヲ聞クニ企業ノ運營ハ往々  
ニシテ不必要ニ不攝生トナリ、自ラ物價並勞力ノ暴騰ヲ招來スル様

隣々で畜業式面を購ふニ軍需生畜ノ飼育ニ要スルハ急セハロイ實ニ  
○畜業果ニ欲マハ二三ノ諸國

ロイニスス。

大東亞乃至國際的見此ヨリスル子ハハロニハ職ノヤト  
ヲ引上ゲテクレ、引上ゲナケレバ増産ハ出來ナイトセガム具合ハ一  
寸金融業者ヨリモ一枚ウワ手デアルト云フ。果シテ然ラバ此ノ部落  
ニモ亦心底ノ入レ換ヲ要スルモノガアラウ。尙生産方面ニ就テ左ノ  
様ナコトヲ聞ク。

1、工場ノ倉庫ヲ實地ニ檢分シタ人ノ話ニ生産資材ニ就イテ甲會社  
ガ豐富ニストツクセル資材ガ乙會社ニ缺乏シ、乙會社ニ潤澤ナ  
資材ガ甲ヤ丙ノ會社ニ缺乏シテ居ル場合ガ尠クナイ。之ヲ各社  
ガ徒ラニ握リ込マナイデ資材ノ有無相通ヲヤレバ生産ハ更ニ増  
大スル。但シ陸軍御用工場トカ海軍御用工場トカ同一會社ノ工  
場デアツテサヘ別々ニ隔離サレ、同一工場内デモ仕切りヲシテ  
事務所ガニツアルト云フ様ナ現状デハ、資材ノ相互融通ハ云フ  
ベクシテ行ハレ難イカモ知レヌト云フ。

謝テロイニ聞ク。

ニ子亦小魚ノ入リ、鱗ニ裏スル子ノ成テマヤ。尙生蝨式面ニ憶マシム  
テ金蠟業者ヨリ子一対ヤマモマテハイ云マ。果シテ然ラズハ出ノ暗幕  
21、職工ノ服務状態ガ緊張ヲ缺グト云フ。月極メ拂ヒノ職工ガ屢々

休ンデ其ノ實ハ内證デ他ノ職場ニ聞デ働キニ出カケル。カクシ  
テ高イ賃銀ヲ取ルト云フコトガ行ハレルト云フ。徴用戰士ナド  
デサヘ實際ハ頗ル不眞面目デ不成績ノモノガ尠クナイト企業者  
ガコボシテ居ル向モアルガ。之ハ一律ニ無差別ナ筋肉労働ニ逐  
ヒ込ムコト、セズニ、其ノ技能ニ應ジテ適材適所ノ配置ヲ考ヘ  
テヤレバ、成績ハ更ニ擧ガルトモ云ハレテ居ル。

カ、ル際ニ過般ノ南太平洋ニ於ケル大戦果ガ全國民ノ感激トナ  
リ、工場労働能率ノ増進、向上ニ好影響ヲ齎ラシタト云フコト  
ハ、當然ノコトナガラ喜バシイ次第デアル。然シナガラ逆ニ又  
此ノ大戦果デ戦局ヲ氣安ク見テ調子ガ落ちタ工場モアルトモ傳  
ハツタ。油斷ハ實ニ大敵デアル。

3、企業整備ノ進捗一日モ速カナラザル可ラズ。末稍ニ拘泥セズ既

マセハ實烈ハ賊ハ不眞面目ヲ不知辭ハ子ハ其情ハセトイ企業者  
モ高卜實驗マ取ルイ云クロイセ行ハルハイ云ク。遺用彈士セ  
外ハ其ハ實ハ内儲ヲ外ハ銀財ニ聞テ儲キニ出セヤハ。セハ  
定テ金ノ力強キ推進實行ヲ督勵スベキデアアル。企業整備ノ實行  
方針ニ就テ中央ト地方トノ間ニ齟齬シテルトコロガアルト云フ  
モノガアル。果シテ如何。

4、會社方面相當ノ利益ガ舉ツテ居ル。其ノ金使ヒモ荒イ。コ、ニ  
モ消費規正ノ要ガ存スル。資材使用上ノ消費規正バカリデナク  
遊山的經費ノ増嵩ニ戒心ヲ要スルモノガアル。

前線ニ於ケル赫々タル戰果ヲ思フノ時、銃後ノ各職場又赫々ノ成果  
ヲ舉クベキハ國民ノ全責務デアアル。戰局苛烈ハ覺悟ノ前ノコトデア  
ル。勝チ拔ク爲メノ自肅ト邁進、敢テ蕪辭ヲナス所以ナリ。

極秘

蕨山の遊費、曾嵩ニ如クマ要スルヲ子ハセリ。子ハ遊費五ノ要セテスル。資材對田土ノ遊費五ノ要セリ。子ハ遊費五ノ要セリ。其ノ金對子荒ト。ニ

昭和十八年十二月二十八日

(田中私記)

半島經濟管見

大戦下緊張の裡、匆忙歳末を送る茲に、雜感數項を  
草し以て、同願に資す



目次

- 一 半島經濟の急伸展と資金政策
- 一 資金撒布と其の循環性の保持
- 一 通貨膨脹の趨勢と其の措置
- 一 貯蓄と半島の特異性
- 一 大衆層の購買力と其の吸収
- 一 米穀集荷に於ける農會と金融組合
- 一 半島に於ける企業者の心構如何
- 一 企畫と聯繫工作

### ○半島經濟の急伸展と資金對策

過去一ヶ年間に於けるが如く半島經濟が急激に開發の歩を進めたことは曾てあるまい。半島が占むるところの戦力増強上に於ける重要な展合に就て理解が深められたと同時に、半島が具有する種々の好條件を活用することに本格的の腰が入られて來たことは總督政治の一つの輝きである。

斯の如き半島經濟力の増進工作に伴ふて資金面への要請も亦急且大なるものあるは異とするに足らぬ。即ち生産力増強に即應して資金の供給は著しく増大して來たのである。而して生産企業は自己資金に乏しく、又株式、社債による資金調達では勿論間に合はないので、大部

分を金融機關からの借入に仰いだ譯であつて、試みに本年十月を以て終る一ヶ年間に於ける半島各金融機關の貸出の増加を見れば實に十億七千萬圓に上り三六、九%の増加を示して居る。從來は一ヶ年に僅か二億數千萬圓即ち一割強の増加に止まつて居た。右の様な最近の貸出増勢は戦力の充實と共に今後も更に繼續されて行く。是に於てか二つの點に於て留意を要する。

其の一つは戦時下の要請に應へて資金も資材と同じく機を逸せず圓滑に供給されねばならぬが、さりとして矢~~輕~~に無意義に濫費されてはならない。蓋し時局下の急務と云ふことからして資金などは構はず使へと云つた一寸威勢の良い言葉を亂用するものもあるが、恰も無駄なところ元氣を消耗して暴飲暴食をやれば其の結果激しい腸胃障礙を起し

て健康衰退で消氣ねばならなくなると云ふことに氣がつかねばならぬ。資金浪費の裏には畢竟物資、勞力の浪費がある。物價は上り、勞銀は上り、生産費は上り、何度買上價格を引上げてでも追いつかなくなる。戦時下資材の效率的利用の爲めに薄板の切り屑一片でも大事にして居る此の除である。資材の節約活用を知らながら資金も無駄使ひしてならぬことに氣づかぬ譯はない。勿論、現下何よりも物資を必要とすることの切なるは誰れも知つて居るが、俗に云ふ「金よりも物だ」と云ふことを輕卒に曲解してはならない。半島經濟界にはそんなことはいと信ずる。或はこんな言葉を資金調達上の方便に使つたかも知れないが、兎に角過去に於て内地企業者の一部には往々こんな粗忽者もあつた様に聞く。

其の二は資金循環性の保持と云ふことである。戦力増強の爲めに産業資金として當然増大する撤布資金は之を再び吸収還元し、所謂循環作用に依て資金の無益の滞溜を避け其の効率を向上せしむべきである。素より此の還元には時間を要する。其の間にも資金は逐次供給して行かねばならぬから通貨発行數量も次第に増加の趨勢を示すの已むなき事情はある。況んや取引様式様か信用取引から現金取引へ移行する傾向は一層通貨數量の増加を招來する。然しながら此の傾向があまりに急激に且過大に來れば戦時經濟の實體をして脆弱ならしむることになる。斯くて資金の滞溜が多くなつて物との權衡が調節出來なくなれば、茲に戦力増強の目的に逆作用を齎すべきインフレーションを惹起する。勿論時局の要請に即應して或る場合一時に資金を急激且多額に放出せね

ばならぬことも起るが、斯かる放出を行つた後には一層之が還元に努力して、正常なる資金循環性を損せざる様、従て又戦時生産金融國策の耐久力を減殺せしめざる様措置することが肝要である。決して今前途を悲觀するものではない。唯徒らに俗に通りの良い威勢の良い言辭の爲めに此の重大な將來を崇られることのない様戒心を要すと云ふ次第である。

○資金撤布と其の循環性の保持

戦時下金融通貨政策上に於て、今後も

(1) 國庫支拂、租稅徵收並公債消化等の財政上の收支

(2) 生産資金の増大する需要

は益々重大な動向を齎すものである。此の關係に善處して資金の循環性を保持することが愈々肝要となるが、之が爲めには、(一)資金放出面に於て適正なる資金配置を要する。之には企業と統制が適當に行はるれば先づよいとして、更に資金の使用上效率的なるを要することは前述した通りである。適正に配置された資金が其の所期の目的の爲めに妥當に遺憾なく活用されて居るかどうかと云ふことを常に検討して見る工夫が必要である。資金を使用する企業者の自肅は勿論肝要であるが、一万之を監視する監督制度の充實改善乃至強化を必要とせずや、勸考せらるべき問題であらう。(二)資金調達面に於て撤布資金の滞溜を防止すべき吸收政策が大事である。之は決して易々たることではない。一般消費の規正と共に貯蓄の増強に最も力を致し、極力浮動資金を吸

ひ上げて之を再び有效なる資途に轉回せしむることが今日は非常に大切な時代となつた。今日の金融政策の骨の折れる點は寧ろ此の資金吸収面にあると云つてよい。

資金の調達は金融機關を中心として考慮することが戦時體制下に適當して居る。何故かなれば戦費の調達と云ひ、生産資金の供給と云ひ、一應資金を金融機關に集むることに依て、戦時の要請たる企畫的に且又大口に即應することが出来るからである。素より公債償消化の如き各個人への直接消化も推進して行くべきであるが、金融機關に資金を集むるにあらざれば今日の老大な資金需要に對し敏速且妥當に賄つて行くことは出来にくい。殊に金融機關に依て小額の資金を集積して大口に運用することが出来るのである。是實に時局下金融機關の機能上



重大なる重點の變化である。

○通貨膨脹の趨勢と其の措置

通貨膨脹の趨勢は最近目立つて來た。一般的に見れば之が主たる原因となる事情は

- 一 財政支出の増大
- 二 産業資金需要の旺盛
- 三 物價騰貴
- 四 輸送費の増加
- 五 俸給、賃銀の増大
- 六 現金手持高の増加、而して其の主因は

イ、物資統制に伴ふ現金支拂制の増加

ロ、日常物資出廻り不圓滑の爲め隨時の購買に用意する爲めの現金手持の増加

ハ、商取引の横行に伴ふ現金買の増加

ニ、現金の退藏

七、企業の整備所要資金並企業設備の未完成乃至未運轉又は生産物の搬出不充分等に因る資金の固定に伴ふ新資金の需要増加

等であるが、素より右諸事情が通貨數量に及ぼす影響の輕重大小は時により異なる。殊に半島の實情から見れば、最近に於ける産業擴充工作の急伸展に伴ひ資金需要が急増せることと、農作物集荷季節に入り<sup>収</sup>買資金の需要が急増しつゝあること等は特殊事情として考慮されてよ

ものである。

尙他面に於て、如上の諸事情を通じて放出された現金が流動性必ずしも敏ならず、還元作用が資金放出面の急テンボなるに副はない傾向があることは、通貨膨脹の消極面に於ける原因として挙げ得られるであらう。

是に於てか今後一層右諸事情の推移を検討し、之が對策を講じて行かねばならぬが、施策上の大體の方向としては、

一 資金放出の周到なる規正、即ち不急、非重點的企業に對する放出を規正する爲めには現存する資金の企畫制度を適正に運営して行くべきだが唯時局に便乗せんとする企業資金の需要が介入せざる様勘別を要する。因習、情實、都合等に囚はれぬ、舊時代の所謂實績主義

に執着せず、要は今日及將來の國策的見地より勘案すべきである。  
金融機關も亦徒らに打算に墮したり、或は同業相闘ぐが如き舊思想  
は脱却することを要する。

二 資金を使用する側に於ける企業運営の放漫を戒め、資材と同様資金  
の高能率的利用の爲めに濫費を自肅せしむべきことは前述の通りで  
ある。

三 配給機構の運営を適正ならしめ、生活物資の絶対必要量並車需生産  
物資の妥當なる配給を確保せしむる。斯くて物資ストツクの爲めに  
資金の固定することを避けしめ、又取引上普通の現金買を減せしめ  
闇取引を防止することが出来る。尙出来る丈け現金決済を少くして  
信用取引とし、或は現金を動かさずに振替拂とする等、現金使用量

の節約を圖るべきである。

四 物價の急速なる昂騰は企業の資金計畫を混亂せしめ生産力を阻碍する。素より物價政策には物資の生産、配給、運輸、消費規正、價格公定等の諸工作の聯繫協會を必要とするが、價格の公定は普遍的でなく寧ろ重點主義をとりて之が徹底を期すべく、闇相場の横行は前記述せる配給確保の一面に於て嚴に取締るべき次第である。

五 労働賃銀の暴騰は種々の方面に累を及ぼす。之は一般物價特に生活物資の昂騰に因ても招來されるが、一方企業者間の勞力爭奪にも基因する。故に勞力の適正なる配置に意を用ひ、必要により徵用制を廣めることも考へられ得る。勞銀は妥當な勞務配置の下に、其の勞務の性質、種類等により勞銀率を勞務比重に準じて差等をつけること

はとに工夫する必要があらう。又勞銀に代へて一部日用必需物資の  
實物給與の方法も一工夫を要する。最も取扱ひにくいものは自由勞  
働者の勞銀と闇取引勞力の勞銀とである。取締の上に極力彼等を組  
織化することが出来れば都合がよいが、何れにしても經濟警察の苦  
心を要する所である。

六 生産隘路は此の際極力打開するの努力を必要とする。斯くて未動乃  
至停頓生産力の運行を促進し、生産から其の生産品が換價される迄  
の間、即ち企業收支の間隙を少からしめて、資金所要量を節減せし  
むることは産業政策上からも又金融政策上からも頗る大事なこと  
である。

以上は専ら資金放出の方面から觸れたのであるが、次に資金の吸收

方面から考へねばならない。之は申す迄もなく貯蓄の勵行と云ふことである。貯蓄に依て資金循環性保持、増大する資金の調達、而して一面通貨所要量の節約が可能となる。貯蓄には根本に於て

一 通貨の將來に對する國民の信頼感を高むべきである。今次の戦争に依て國力が無限に伸展し、貯蓄した金や投資した公債につき何等不安なきことの理解を徹底せしむべき必要がある。

二 貯蓄の増大には一面消費規正と物價抑制の政策が大なる關聯を持つ、之が爲めには生活必需物資の適正なる配給確保が伴はねばなるまい。消費規正は獨り個人の問題ばかりでなく、會社の經理上に於ても等しく規正さるべきで、従て會社の必要とする資材の供給については適正な配給が考慮されねばならぬ。

貯蓄の増強については今更贅する必要はないが、唯現下如何なる方面に重點を置いて施策すべきやが問題であると思はれる。

尙半島の金融政策に就て留意せねばならぬことは(一)半島の一般民衆には内地に於けるが如く金融と云ふことに對する理解が未だ圓熟して居らないので、金融國策の意義を徹底せしむるには先づ基礎的認識の向上からして育成して行かねばならないと云ふこと、(二)金融市場操作を行ふ上に内地に於けるが如く巨額の國庫前渡金支拂を利用するの資源がなく、又發行制度の上に於ても朝鮮銀行には限度があり、市場操作を行ふことを得べき發行力の範圍は日銀の如く自由でないことである。従て半島の金融操作は氣樂でないことを常に心得て置く必要がある。然し金融同業者間の融和と纏り方は頗る良好であつて、此の點頗



る意を強うすべきものがある。

### ○貯蓄と半島の特異性

貯蓄と云ふ見地から半島の實情を考察するに色々特異性がある。其の通俗的な現はれの二三を拾つて見ると、

「貯蓄と云ふことに關する觀念が低級である。其の爲めに(1)金融機關との接觸を有するものが未だ比較的少ない。(2)天引貯蓄とはお上に取り上げられてしまふ金であるとか、「貯蓄は彈丸なり」と云ふ標語を目して、彈丸となつて戰場に消耗する資金であるから返しては來ない、など言はれて居る。かゝる言辭は敵性層の謀略的宣傳かとも思はれるが、必ずしも無智識層の頭から出た發明

ではなくて、多少智識ある層が半、拗根性からかゝる言辭を流布するのことも云はれて居る。この預金に對する不安、即ち預金しても返してくれるものかどうかと云ふ疑を持つもののあることは事實である。貯蓄を奨励して一二圓の預金をさしたところが、一兩日してすぐ引出す、又數圓預入して幾許もなく一部引出す、こんなことを繰り返す内に拂戻に就ての不安がなくなつたと見え、爾後引續き相當額の預金を積むことになつたと云ふ事例がある。

二 現金退藏の習癖がある。或る田舎の一老婆が死んで其の持物の中から數千圓の現金が出たと云ふ新しい事例を聞く。此は金融機關と接觸する迄に發達して居ないと云ふ關係もあらうが、一面秘密を保持すると云ふ意味があり、他に預けた場合の賦課徴求を虞れ

て現金の密藏を擇ぶと云ふ。説を爲すもの曰く半島人必ずしも貯蓄心なきにあらずと。但しかゝる現金退藏は潜在購買力を構成するものであつて、持主の如何に依ては何時たりとも現實の購買力となつて現はれるのである。

三 換物。一部には換物が行はれる。之は支那に於けると同様の傾向であつて、物價騰貴の先行を考へてのことゝ思はれる。土地とか、書畫、骨董品の賣行の良いことは這般の消息を語つて居る。

四 賭博心。半島民衆の間には可なりに賭博的氣分が包藏されて居る。營利心は濃厚で、富籤買ひの程度でなく、本當の賭博をやること盛なりと云ふ。それは労働者層ばかりでない、鐘路あたりの料理屋街等の噂話が傳はる。

其購買力の現はれは、物資漸減を見越して、差當り必要のない品物  
運買ひ漁る傾向を生じ、即ち將來の用途の爲めにストツクして置  
く方面と、日々の消費に向けられるものとある。後者は労働者層  
の増大した収入が多く之に現はれて來るのである。又中には轉賣  
の目的で矢鱈に物を買ひ集めるものもあり、斯くて昨今の品物の  
賣行きは纖維製品、飲食物、美術骨董品、家具等が目立つと云ふ。

以上の如き通俗な時相の上から歸納し得られる半島人の心理状態は、  
通貨政策上貯蓄を勸奨する上に於て參考に資すべきところであるが、  
何と云つても時局認識の不充分にして感激性に乏しいことは、施策の  
成果を収むる上に餘計な苦勞を要せしむる所以であり、殊に大衆層の  
動向が最も手敷を煩はす次第である。

### ○大衆層の購買力と其の吸収

撒布資金還流の鈍化に原因を爲すものの一は、是等資金が一般大衆層の間に滞溜することにある。農民、職工、小賣商、行商、露天商、自由労働者と云つた大衆層の懐に入る金は、勞銀及物價高に伴れて著しく多くなり、然も之が滞溜して金融機關には還元せらるゝことが尠い。是等の金は一部は消費に向けられ、一部は潜在購買力となる。而して是等の層には納税負擔もなく貯蓄もしない連中が多いのである。尙又是等の層の消費力を對象として所謂闇商賣をやる飲食店等は、搾り取つた現金で又材料の闇仕入れをやるから是又金融機關には入つて來ない。此の層の様相は種々の事例に於て窺知せらるゝ所であつて、此の大衆層の金を吸収し還元することが今日の金融政策上重要なことゝなつて居るに拘らず

決して容易なことではないのである。月給取りや所得の比較的明瞭な層から税を取り貯蓄を實行せしむる様には行き兼ねる、一段の努力を必要とするのである。

此の大衆層から資金を還元せしむる爲めに工夫せらるべきことは具體的には實情に即して色々あるが、試みに二三を擧ぐれば、

1. 源泉に於ける天引主義の強化。即ち農村、鑛山、工場等各職場に於て支拂をなす際に天引して貯蓄せしむる率をなるべく引き上る事
2. 割増金附定期預金の取扱や、割増金附小額債券の賣出を適宜接排して大衆の心理を捕捉すること、場合に依ては彩票的制度をも勘案すること

3. 勘定書に對する公債、債券抱き合せ制度の勵行乃至強化

4 浮動資金の吸収を目途とする租税方策。大衆の間には所得の調査が徹底し兼ねるから間接的課税も加味して考へることになる。非消費物品に關するものの外、飲食物等の消費的勘定に對する課税とか芝居映畫入場料に對する課税とかの引上等、購買力の具体化されたところを捉へて收納すると云ふことを工夫する餘地もあろう。

5 尙研究問題として、特殊の飲食物、消耗品、其他の物品配給につき二重切符制をとり、甲種切符は一般普遍的の同比率配給で低位の公定價格に依らしめ、乙種切符は同種品目につき甲種切符による量を超えて一定限度迄特配するものとし高位の公定價格によらしめ、甲乙種價格の差額は政府に之を收納する仕組を考案すべしとする案もある。現在飲食物乃至或る種衣類等に高い闇相場で平氣で購買して

居るものは寧ろ労働者階級に多いと云ふの實情を見る。

而して大衆層の中でも最も取扱ひにくい相手は自由労働者であり、然も其の収入の増大は顯著で、殊に荷馬車挽の収入の如きは非常なものがある（一日五十圓から八十圓、百圓にも及ぶと云ふ）是等自由労働者を組織化、團體化することは資金吸收の實を擧ぐる上に極めて効果的であると云はれる。

尙配給品の交換制度、即ち各自の不用又は過量配給品を一定の配給品交換所に持ち出して、他の入用品と交易して持ち歸ると云ふ仕組をうまく實行すれば、各自の日常生活の安定性を加ふることになつて、一般消費規正の徹底を容易ならしむることともなると云はれるが、之も亦研究問題の一つであらう。



何れにしても大衆層から浮動、滞留資金を吸収することは今日の重要事項であるが、それには金融機關の心構も亦之に即せねばならぬ。即ち徒らに安易に大口資金をのみ狙ふと云つた舊套は之を一擲せねばならぬ。金融機關は大衆との接觸を氣輕ならしむるに努むると共に、進んで大衆層に突入して行くと云ふ積極性の發揮が望ましい次第である。

○米穀集荷に於ける農會と金融組合

農民に對し其の供出物資の代金を適正に且澁滞なく支拂はねば、供出が圓滑に運ばないのみならず、農民の不平は嵩じて次の作物を回避せんとする聲さへ聞え出す。

目下米穀の集荷進捗の際であるが、農民の供出米は農會で査定の結果を傳票に作成し、之を金融組合に廻付する。金融組合は此の傳票によつて天引貯金を整理し、代金を支拂ふのであるが、此の手續が非常に手間取り農會での整理がつかないで往々夜半に及んでも農民に支拂が出来ないことがあるのみならず、傳票の作成が粗漏で計算も誤りがあるが、甚しきは記載の姓名が誤記されて本人が誰れなるかが判明せず、昨年度の供出米の勘定が今尙未整理のまま未だに通帳の發行が出来ないで居るも

のもあるとは金融組合側の話である。農會では供出米の取扱について農民から一駄七錢の手數料（内二、三錢は米穀検査斡旋手數料と云ふ名目で取る）を課して財源を得て居るが、この財源は別に考ふることとして、一体農會が不得手であるところの收買如き經驗行爲をやるのが妥當であるかどうか研究問題である。農會は農事改良、指導方面のことを眼目とし、收買の如き取引事務は一元的に金融組合をしてやらしむる方が、事務の迅速と正確を期する上から、又農民の都合上から云つて便利ではなからうかとも云はれて居る。茲に結論には觸れないが、このことは農民政策の大きな見地に立つて、過去の経緯や關係各自の個別的立場を離れて、一度あつさり検討して見ることも無意義ではなからうと思はれる。

尙金融組合に就き、農民の間に云ふ所は、金融組合は預金を取り入れ

るばかりで受入後の事務整理が亂雜であり、

イ、決算期に利息の計算をして居ない組合もあり、又利息計算をしても誤謬が少くない。

ロ、天引貯金の満期（二ケ年据置）完了しても組合は何かと理由をつけて容易に拂出要求に應じてくれぬ。強硬に拂出を請求すれば後日の取扱振りに依て祟られる。

ハ、本年の天引預金は本年から道内の他の金融機關に振替を許すことになつたが、實際は仲々看板通りに振替を手早くやつて呉れない。

こんな有様であるから大地主などは金融組合に預金することを嫌つて居る。又天引預金をやめてもらひ度いとの要望もあると云ふ様なことが云はれて居る。貯蓄促進に逆行することになつては困る。

以上の様な話が出るのは結局は金融組合に人手不足と當務者の素質の低位なることが主因であるとも云はれて居るが、農民政策上考へなければならぬことは、預金の拂戻し要求に對し拂溢り方が餘り強過ぎては農民層に不平不満を醸成して、全体的に貯蓄預金の熱を冷却せしむる虞もあるから、程よいところの取扱が望ましく、又現在天引預金以外の分の支拂は全部通帳拂として居る趣旨はよいが、之を緩和して通帳拂の取扱は中地主以上のものに對してやると云ふ程度にしたらどうかと云ふ説も起つて居る。

何れにしても農民の供出物資に對する代金支拂問題は獨り米穀關係ばかりでなく、野菜類の供出などについても支拂遅延乃至不拂をかこつ聲が聞えることは注目に値する。

○半島に於ける企業者の心構如何

現實の問題として其の心構を検討する譯には行かないが、一般論として云へば、戦時体制下企畫的統制經濟の推進を要する以上、官廳の監督指導權は強化されること當然であるが、かゝる時代には企業者の中に、(1)國策産業なる看板により官廳の權限發動を利用して時局に便乗を圖り、骨折らないで一旗擧げようと云ふ考へ方と、(2)企業者としての自己の責任を思はず唯々諾々全然官廳におぶさると云ふ考へ方とが發生し易いから警戒を要する。

又其の然らざる場合に於ても、兎角掛聲ばかり威勢がよくて實際に企業者の心構が粗慢であつては、戦時の要請に即應した成果は擧らない、寒心すべきことである。況んや企業者が自ら監督指揮をせぬのみか一度

も現場を見にも來ないと云ふ様な全く人任せの不在企業者が、大きな口をきいて威張り散らすと云ふ世相が今日許さるべきであらうか。半島の如き時局産業開發の推進頗る急なるものある際には、餘程この邊の心構を引き締めて行かねばなるまいと思はれる。

非常時局下の企業に對しては、企業の運営及經理に嚴重なる監視を加へ、苟も怠慢あり、放漫あり、胡魔化しをあらしめてはならぬ。企業者をして嚴重に其の責任を帯ばしむるは勿論、其の成績舉らざる場合に於ける企業者の申譯に就きては篤と検討を加へて假借なき措置を講ずるの要も起らん。

企業界に對して要望せらるゝところは今後に於ても尙、

一、資材及勞力の適正なる配給。

(企業相互間の有無相通—闇取引の防止—資材溜置又は濫用の防止—  
統制會切符と實物配給の合致—生活必需物資の確保等)

## 二、企業經理の規正。

(企業運營の放慢警戒—企業會社の消費規正—資材及資金の效率的使  
用—非重點産業の時局産業への便乗排除等)

## 三、生産物價格の安定性強化。

(一般物價政策上重點的公定主義の徹底—生産費の平準化促進—賣上  
價格改訂要求の自肅等)

## 四、勞働力の増進。

(勞力配置の適正化—勞力争奪並闇稼ぎの防止—徵用勞力の效率的活  
用—勞務者の訓練—勞務現場主任の養成—食糧補給—勞務比重と勞



二、企業盛衰の概況  
五、生産隘路の打開  
銀との調整等

五、生産隘路の打開

(生産と生産品の換價との間隙縮小—運輸の改善—設備、素材、燃料、電力、勞力の綜合考査等—)

の如き諸點は依然として注意せらるべきところと思はるゝが、殊に半島に於て今後に来るべき生産上の重要な問題としては、食糧の補給と勞力配置の點ではあるまいか。果して然らば今日から充分に之が對策を講じて置くの必要があるであらう。又産業の種類から見て感ぜらるゝことは、日常衣食住状態の變化につき一喜一憂することの多い半島人の生活の爲めに、或る種地場産業の存續を工夫することも一策と考へられるが何れにせよ農業乃至農民政策の重要性は獨り經濟上のみならず、社會上

よりも意義深きところであり、卑近なことを云へば、食料の假令ほんの少量の増配でも民衆が起す好感覺は案外なもの様に思はれる。況んや今後可能となつたら南方占領地物資一片の匂ひでもかゝしたら又格別の効果があるかも知れない。

#### ○企畫と聯繫工作

要之、大戦下戦力増強を至上命令とする体制に於て痛感せらるゝところは、

一、企畫の周到と云ふことである。企畫は最も有効に戦力を増強するの基礎であるから、戦時の要請に即すべき重點的綜合考査により、必要諸條件の釣合のとれた企畫を實行し、一つの製作が折角完成しても之

を動かすべき他の製作が不足したり又は遅延したりした爲めに、完成部分を睡眠状態に置くと云ふ様なことのない様、又製作を遣り直すと云ふ無駄を惹起せざる様留意することが大切であり、従て企畫の衝に當るものの責任は極めて重大である。

二、戦力の運営には各職場・即ち官廳・同業者・他種業者等相互に聯繫を有するものの中に渾然たる協力聯絡が保持されねばならぬ。之は各地域の爲同に又各政策の間に於ける聯關性に就ても同様であり、急進的開發途上に發足した半島に於ては殊に此の點が望ましく思はれる。

但し<sup>究</sup>莫極するところ人にあり、此の重要な半島の經營には、廣い視野と高い構想とを有する人的要素が大切である。此の要素を育成するに當り豫て指導統率の上に於て寬嚴宜しきを得られてゐることは何よりのこ





雜

觀

雜

聞

昭和十九年二月十七日

(田中私記)



戰時体制下の施策は着々進捗し、諸般施策の整理充實と共に國民の戰時意識も亦漸く高潮、各職場の緊張は日に眞劍味を加へて居る。然しながら局面は實に重大、皇國の興廢を決するの日は刻々に近づく。彌が上にも足らざるを補ふて以て敵撃滅の實力を強固ならしめんとするは等しく一億國民の念願とするところであらう。

一、昨今頻りに隘路を叫ぶの聲を聞く、素より出來た隘路は克服して行かぬばならぬ。然し又元來隘路をでかさなない様に心掛けることが肝要である。此の觀點から茲で其の問題とすべき二、三の事項を概括的に擧げて見れば

1、各企畫の連繫的考査並其の連繫的實行を周到ならしむること  
が肝要であるが、從來果して満足に行はれて居るかどうか。  
一つの製作は良好に進捗しても之と關聯して必要なる他の製作  
が釣合のとれぬ爲め企畫の目途とする實際の作用が出来なくな  
る。

2、生産能力の具備を以て能事了れりとなす傾向は避けねばなら  
ぬ。生産能力が具備されても實際生産の實が擧らねば何にもな  
らない。機構が出来設備が出来上つたからと云つて氣を抜いて  
は困る。實は運営の實果如何が大切なのである。大砲を打つて  
も彈着觀測をすることの重要なると同様、監督官廳の如き殊に

此點大に留意されて居るかどうか。

3、戦力増強の急を要するは正に此の時にあり。一氣呵成に敵を撃滅するの機を逸してはならないが、然しながら戦争は戦況の推移と敵の出方によつて長期化することにもなる。是を以て急を告ぐる現下の要請に即應して強き力を注ぐと同時に、長期的態勢の基調を輕視してはならない。即ち戦争が長いと考へなければならぬとすれば均勢のとれた極端に偏在しない計畫を必要とすることになる。銃後に於ける生産力（資材、勞力、資金）の浪費乃至非效率的使用は戒心すべきである。兎に角戦力増強の急を要するに當つては犠牲も多く拂はねばならぬが、さりと



て放漫無意義は許すべきではない。政府補償があるからとか、政府が後始末を見るからとかと云ふことにおぶさつて、濫りに生産力を浪費しては國家的に見て其の損害大である。陳腐なことであるが時相はこんな言を繰り返さしむべきものが果してないであらうか。

二、生産擴充の爲めの設備の新設擴大は著しく進捗し、今や之が活用運營時代に入つたとも云はれるが、現實は此の擴充された設備が充分に運用されて居るや否や。速かに完全運營の實現が望ましい。と同時に又重要なことは舊設備の修補と云ふことである。永い間能率を擧げて來た機械其他の設備が漸く修繕補強を要する

時期に到達し、其の能率が舊の如くに擧らなくなつたものがある。然も是等は少し資材を配し少し手を入れると其の能率は容易に恢復向上するものが尠くない。寧ろ新規に設備するよりも此の修補工作による方が手早く且つ有効である場合も尠くないと云ふ。生産設備の新設擴張のみに氣をとられてゐると云ふ譯ではあるまいが、如上の修繕補強方面に對して資材を割當てることは現下生産力の増強上肝要であることを閑却してはなるまい。

三、戦力の長期的強靱性を確保するには戦時消費に即應すべき生産力の増強を必要とすることは申す迄もないが、結局歸するところは國民精神力の保健如何にあり、神經質的な苛々した氣分では大戦

争は仕來ない、國民自ら精神的鍊成にいそしむと共に、政治には戦時經濟生活をして潤ひあらしむることが戦力支持の素因ともなるのである。

然も一面には國力を賭しての未曾有の戦局に際會し、尙も個人的の世渡りを念とするが如きものは論外とし、唯注意すべきは是迄今日の如き重大な戦局に逢着したことのなかつた我國民としては、動もすれば、どうせ戦争は勝つものだと簡単に考へてしまふものも中にはあり易いのである。時局の非常なることをよく認識せしめ緊張力を鼓吹することも考へねばならぬ。殊に敵が此の戦後に於て如何に根強く我が國を覆滅し我が國民を殲滅せんことを期し

て居り、又我が正義を歪めて悪逆となすの宣傳を恣にしつゝあるかは、或る程度我國民に認識せしめなば我國民をして徒らに對外的にお人よしに墮せしめざることが出来るであろう。

四戰力增強政策上の現在の段階に於て重要なことは、是迄の諸工作の結果に現はれたてこぼこを是正すると云ふことである。數年來捏つち上げた機構や設備を實際運營して見ると、色々の點に過不足や不均衡や缺陷が現はれて來る。爲めに運行は所期の如くなる能はざるのであるから是等は急速に補正改善を要する。今や事態は此の段階に入つて居ると云はれて居る。例へば

一、企畫。　企畫が連繫的に釣合がとれない爲め設備と動力、燃

料、機械、勞力等が調子が合はない爲めに、折角構造は出來ても動かないと云ふ場合、或は規格が不統一で、然も其のまぢまぢに定められた規格を是が非でも推しとうす。彼此流用しても毫も差支ないもの迄構子定規に流用をきかせない爲め工程が著しく遅れると云ふ。寧ろ規格を少しく下げて統一することになれば、全面的に工作の進捗一段と迅速を得る場合があると云はれて居る。

2、資材。石炭、鐵、輕金屬を始め産業の重點方針は行はれて居るか、其の重點の數は實際上彼是と増加して來た觀がある。之に對する資材の適正配給は一通りならぬ苦勞ではあるが、當

業者に云はせると統制會から配給切符がもらへても實物は容易に入手出來ないと云ふ。闇で集める、値段は馬鹿に高くなつた。ストツク品の有無相通も行はれては來たが、全般的に資材の凸凹は尙相當なものであると云ふ。陸海運輸の問題もあろうが根本的に資材の絶對量と實際配給との睨み合せがよくついて居らねばならぬ。一段の工夫が要るのである。

3、食糧。戦時下の根本條件として食糧の確保は既に其の總量に於て成算ありとしても、配給に於て圓滑妥當を得ざれば生活は窮屈の感を多からしめ、闇横行、農民や小商人の思想悪化。一般人は時間と勞力とを食ふ爲めに浪費するや大なりと云ふこ

とになる。

府縣**ブロック**尙依然固くして、所により生活物資補給の厚薄著しきものありとも傳ふ。これは相愛互助すべき國民の戰時意識に於て未だ徹底を缺くものあるに因らざるか。尙一面増産の爲めに農村勞力に就ても総合的勞務企畫の下に適當な配置は確保せねばならぬ。

4、勞力。其の配置と活用とにむらがある。勞力の動きが國家目的にびつたりと來なければ之は由々しき大事である。勞務に關する研究は一層慎重を期すべきであり、勞務監理の方途の如き大に考慮を要するものがあるのではあるまいか。巷の話を

聞くに

(イ) 諸工場の現状は勞力不足に之が補給を焦慮して居るものもあり又勞力過剰で仕事がなく、唯給料や食事を與へて体操ばかりやらして居るところもある。勿論斯くして工場の完成をまつものもあらうが。工場の家は出来ても當分機械や原料がそろわざる爲め雨天体操場式の状態を續ける外はないのであるとさへ云はれて居るものがある。果して然りとせば貴重なる努力を一刻もかゝる状態に置き度くないもので、勞力の配置は緩急宜しきを得たいものである。

(ロ) 勞務者を收容すべき舍屋の收買は各會社競争的である。旅館



や寺などは其の對象であるが、相場は建坪一坪で千圓から千二、三百圓、然も寢具は闇でなくては入手出来ない。斯くして勞務者一人を收容する費用は千二、三百圓を要すと云ふ。

い) 勞務の状態は大體緊張はして來たが、中には二週間も所屬工場を缺勤して沖仲仕、土工、小運送、町工場の臨時工となつて闇働きをして居るものもあると云ふ。是等の賃銀は一日十二、三圓から十四、五圓、然も徵用工などでも一部は忠實一部はざるける。中にはならず者も相當居る。玉石混淆で徵用工の能率は大體擧がらないと云はれて居る。或は町工場で自分の技能を活かして働いて居たものが徵用工となつてからさ

つぱり自己の技能が没却された爲め不平も起るとも云つて居るが、寧ろ轉廢業者の勞務振りの方が概して素直だとも云つて居る。

(二)賃銀についての不平は尠くない。工場に永年居る勞務者から云へば徵用工や轉廢業者には何も腕がないのに相當の賃銀を拂つて居るのは不都合だと云つて、**サボ**氣分を出す向もあると云ふが、徵用工の側でもとても安賃銀で暮せないところぼす。各個人を鑑別しての賃銀の調整は差當り決して容易なことではないと思はれるが、大体の筋は合理的に考へて行かねばなるまい。

5、企業の整備。これは最初から手数がかゝることは豫期し得べきことではあつたが、戦局日に急なる今日、整備處理は緩慢を許さない。急速度の推進を要する。苟も國家の要請に縁の遠い工場が何時迄もごろごろして居て、然も中には操業中の工場の中までも尙制限を要するものもあると云ふ聲があるが果してどんなものか。

尙一面に於ては全國で一、二しかない様を重要工場の疎散はどうであらうかと心配して居る向もある。

6、資金。近來インフレ懸念の聲漸く抬頭す。それ見たことかである。數年來の戦時金融は動もすれば時流投合に傾き毅然た

る國策線の貫通が薄弱であつたとも見られて居る。然し今更周章てることもないであろう。元來戰時体制下の金融は資金撒布が急増して物資消費が膨大となる。金と物との釣合は次第に變化して行くが、此の傾向を急ならしめず如何に長期になだらかに持つて行くかが要諦である。戰勝の曉には又インフレ調整の途も開ける。

現下大に意を用ゆべきは申す迄もなく資金の國策的配置と之が活用の最効率化である。戰費の調達と生産資金の供給に積極的金融を必要とする一面、資金の回轉を圓滑且迅速ならしめねばならない。蓋し資金固定の反面には物資勞力の固定がある。消

費規正、遊資吸收の意義は茲に存する。資金の撒布は久しきに亘つて益々多くなるのは已を得ない。淋雨久しきに及べば雨水は獨り河川に流れずして普く大地に浸潤することが漸く深くなる。農民及一般大衆層を目途とする資金吸收への努力を叫ぶ所以も亦自ら瞭かである。手ぬるく経過すれば通貨の價值は續落する。そろそろ巷間には物々交換の聲も聞え、一般に金を粗末にする傾向が見えて來た。

戦時下國家財政が一般經濟に及ぼす影響は愈々甚大を加ふ。殊に金融面に於ける財政の關係は益々緊密。財政政策と之が運營

の巧拙は戦力の消長に關するところ至大なるは又多言を要しな  
い。常に財政と經濟との關聯性を廣く綜合的に考査すべきであ  
り、方策は寧ろ淺く複雑化するよりも、深く簡素化するを以て  
戦時の要請に副ふこと易しと云ふべきか。

金融機關を以て舊体制なりとなすもの、其の云ふ所幼稚にして  
必ずしも首肯し難きものがあるが、翻つて金融業界の實情に顧  
みれば又大に反省を要するものなしとしない。當業者は確かに  
理智に富んで居る。反面自衛的營利に囚はれ易くして互に協心  
戮力の實を完ふするに熱意と誠意とが足らぬ場合がある。金融

業者間のえげつない競争も世間の話題となる。顧みて堂々國策を以て立つと云ふにあらざして易きを時流遊泳に求めんとするの傾向あるものは果して無かつたであらうか、凡そ金融政策は獨り金融業者の手に依てのみ克く完遂し得可きものではない。各職場各層に亘る全面的理解と實踐と協力とがあつて始めて之を完遂し得べきものであると云ふことを、金融當業者自身から先づ自覺し、一般經濟界にも亦能く了解してもらわなければならぬ。

## 五、監督處理擔當方面に就ての噂

(イ) 政府が事務簡素化と處理敏速を期して既に數次に亘り改善の途を講せられたことは實に名政治であるが、事務處理の實情は遺憾ながら尙舊態を脱せざるものがあると言ふ話を聞く。殊に官廳下部の執務振は平時に於て仕來りたる悠長さところだわりとをまだ脱しないと見るものもある。沈んや上層部に於て決定された方策であつて下部に反對意向でもあつたものは一層處理進行は遅緩であると云ふ噂がある。

(ロ) 技術官の平常は事實職權の發動に重きを置かれて科學的研究に薄く、自然其の能力は時代渥れとなり、技術的査定の權威力に



乏しく、動もすれば情實を加味せんとする傾向すらありと云ふ  
噂もある。或は又工場監督官の如きも専門的智識経験に乏しい  
ので監督権の行使が肯繫に中らず、當業者は唯その監督権に對  
して一通りならぬ苦心を要するとも云ふ。

（ハ）統制會の官僚化とは世間によく云はれるところであるが、中  
は其の無見識無能力を云々するものすらある。其の眞偽は別と  
して無用論の擡頭は何と見るべきか。金融統制會に就ての斯界  
の聲なども往々聞きづらいものがある。

○ — ○ — ○ — ○ — ○  
敵は漸く邊境に近い。時局の重大なる敢て人をして至情無辭を致

さしむ。申す迄もなく刻下の情勢に對處するには結局人である。氣力横溢せる國民を要する。皇國を廻る東亞、東亞に連なる西域、視界には常に其の廣汎且複雑せる動きを包含して斷々乎たる歩武を進めて行かねばならない。精神も力も行動も此の大局に即應しなくてはならぬ。方策も勇氣も又襟度も相手の如何により出し方は異なるが、要するに小手先や舊時代の型では此の時局の解決は出來ないことを國民は自覺して居るのである。蓋し戦争は素より業ばかりではきまらぬ。力がなくてはならぬ。先づ力が備はつて而して業が冴えねばならない。

(了)



部下検討を要する事項

(昭和十九年三月十八日)

一、或る製作が<sup>所角</sup>良好の出来上つても之と開研せる他の必要を製作が釣合のとれ<sup>ちい</sup>が、實際の運用が出来ない。是を以て各企畫の連繫的考案の基に釣合のとれを新製作の案を進めることが肝要であるが、<sup>結果</sup>此の観点から満足を得ざる状態ありや否や

二、生産能力が異常にこれでも實際生産が出来ないものを何となく、<sup>あ</sup>概構や設備が出来ぬからと云つて増し仕事が必要<sup>了</sup>つたの如く金を抜く傾向はないか。要は實際の運賃の上り実果と等しくることが大切である。大砲を作<sup>た</sup>た<sup>た</sup>けては仕るはろつて居るが、彈着観測が軍大であるが、特子<sup>は</sup>望遠官<sup>の</sup>留意を要する点である。

三、戦争の戦力の推移、相手の出方如何より一息<sup>は</sup>成に敵

を撃滅するにあり、長期戦となる。是を以て急を告ぐる

現下の要請の即戦に力を入れ、同時に、長期的

態勢の基調を軽視してはならぬ。即ち~~戦~~戦力均勢力

のよき戦力増強工作が実行されて居るか否か。

四、戦力増強の急を要する<sup>此の際</sup>銃<sup>の</sup>の備<sup>は</sup>は多<sup>く</sup>は、

はねをあらぬか、さうして<sup>此の際</sup>銃<sup>の</sup>の備<sup>は</sup>は多<sup>く</sup>は、

あて心<sup>を</sup>をい<sup>て</sup>である。政府補償や政府の援助未<sup>と</sup>なること

際、銃後生産者<sup>の</sup>苦<sup>が</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>な</sup>る<sup>傾</sup>向<sup>は</sup>ある<sup>か</sup>。

五、生産擴充のための設備の新設擴張は著しく進捗し、

今や之が活用運轉時代に入つたと云はれるが、<sup>現</sup>現<sup>況</sup>況<sup>の</sup>之<sup>が</sup>充

分の運用されて居るか否か。

六、永年銃卒を養つて来た<sup>在</sup>在<sup>来</sup>来<sup>の</sup>銃<sup>械</sup>具<sup>の</sup>他<sup>の</sup>生<sup>産</sup>設<sup>備</sup>が<sup>増</sup>増<sup>す</sup>

使ひふるされ<sup>て</sup>修繕補給を要するものを<sup>年</sup>年<sup>々</sup>々<sup>と</sup>又

は秋幸の以前より如く景からふるものを生かす事。物も是  
 昔は少く資本を配して輸入を止め、其の秋幸の振  
 復、信用の維持、商軍あるものがある。寧ろ新秋後  
 備はさるるも修補工作の意を用ゆる方が有効である  
 場合が多い。動力増強上如上の修補修補強方  
 面の期、資本を割當することを周知し居らぬかどうか。  
 七、是迄やると来た動力増強政策の結果、テコボコを  
 是正する必要は否か。色々の點の過不足、不均衡、  
 銀路の現状を来々、結果は所期の如く否か。  
 ある。之は至急、修正改善を要するに否か。例へば  
 一、企畫上の釣合かと此を、設備と動力、地租、肥料、  
 機械、労力等の調子の合はぬ場合。不統一が原因。  
 たう、肥料、肥料の調子定規に彼此融通、かきあひ場合。

規則を

同執するもの

2. 炭水、紙は勿論石炭、紙、銅不足を感し、鉄、鉛  
 金屬等全般的に生産を要するが、是等資源を炭水  
 の適正配給は果して出来て居るか、どうか。 従利金の文  
 付する配給切符は多量にても、實物は午子入らぬ。 陸海  
 運輸上の甚く隘路は有るか、果して此の考慮は  
 充分であるか。

要するに根本的なるものは炭水の絶対量と 實際配給  
 との睨み合せがよくついで居るか、どうか。

3. 食糧確保の戰時下絶対条件であることは勿論である  
 が、之が配給が適量に安否を行は居るか。 食糧の  
 農民、小商人の思想變化、 貯蓄の減少たるが、昔々  
 の現象は如何か。有償の 食糧、配給制、~~配給制~~ 配下の日用品  
 等整理の餘地は有るか。

4、労力に就き、其の配置と活用を要する。過不足

が甚しく出来て居る。労務管理の方面より工夫を要する

とばかりかとうか。

設備と労力との不適合、労務管理の<sup>競争的</sup>の労働者の賃金、労務

労務<sup>の</sup>管理、労働者の福利増進等、各向種々の報告

を聞くは如何。

八、企業整備の進捗進捗は如何の爲めか、整備は現

の進捗は今日許し難い、現在豫定中の工場も尚

制限を要する不急急務が存在すると云へる。

一而<sup>国内的</sup>主要工場の新設は如何に考へられ居るか。

九、資金<sup>の</sup>配置、昨今インフレ急激の増生を要する。其の配

置、財源、総合的金融政策のたよりが来て居るか、今

更調査すべきことを要する。要は資金の国内外的配置と



資金の浪費致す戒である。貯蓄増進の申請勸告の  
 潤達と社会資金の有致を供給を積極的によさむは時に  
 資金の回転率を促進せむべきあり、貯蓄増進の  
 故に其の重要性は二、三を述べ置く。資金固定の反面は  
 投資力の固定不伸の伴ふ。大衆層の懐のゆる  
 投資界の思を有せし増加す。是等よりその~~非~~愚意を  
 と施策は果しある。政府のみならず各業界の一般  
 の理解と努力は~~其~~果しある即ち~~其~~果しあるか。  
 自衛的有利偏重の時流遊泳とは旧俸制の批判  
 を~~其~~果す所以である。

十、  
 是れが~~其~~方面に於ける技術者が近年行政方面の~~其~~  
 子手と~~其~~なり。科学的素養が古くあり研究が~~其~~  
 乏しく~~其~~なり。技術的素養の~~其~~批判~~其~~能力の~~其~~欠如~~其~~ある

昭和 年 月 日

朝鮮銀行

二とある。 ~~其の~~ ~~中~~ ~~に~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~が~~ ~~、~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~中~~ ~~に~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~が~~ ~~、~~ ~~専~~ ~~門~~ ~~的~~ ~~的~~ ~~知~~ ~~識~~ ~~の~~ ~~区~~ ~~分~~ ~~は~~ ~~、~~  
 技術監督は肯綮を握る者である。 ~~其の~~ ~~中~~ ~~に~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~が~~ ~~、~~ ~~監~~ ~~督~~ ~~は~~ ~~、~~  
 を行供する権限を有するものである。 ~~其の~~ ~~中~~ ~~に~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~が~~ ~~、~~ ~~監~~ ~~督~~ ~~は~~ ~~、~~  
 乃至指揮を受ける者は一通である。 ~~其の~~ ~~中~~ ~~に~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~が~~ ~~、~~ ~~監~~ ~~督~~ ~~は~~ ~~、~~  
 と言ふが、果して其の如くありや否や。



秋下権派ヲ要ス（キニ三ノ月）

一 戦局推進ハ益々複雑ヲ加ヘツ、アルノ情勢ニ逆行シテ国内  
一般民心踴ラズ、生産面ノ如キモ、これ多分、為メ能率低  
下セリト云ハル、ハ如何。

一 戦時施政ノ運営乃至人物ニ果スル批判ハ表面抑制セ  
ラレアルガ如キモ、内実ニハ最近寧古深刻ヲ加ヘ、都令地  
方地方へ産況ニ彌漫シ、不満不信ヲ云々スルモノ、民衆  
ノ間ニ弥々、然モ官界人ノ間ニ於テモ亦同好ノ傾向ヲ  
生シ、政治何処ニアリヤ、等ノ歎声ヲ傳フルモノアリト云  
ハレテ居ルハ果シテモ矣カ。

一 食糧ノ配給不備ニ因リ、果スル至平ハ、副食物乃至補充  
食料ノ缺乏ニヨリテ、一層苦悶シタルノ觀アル処、種々ノ  
悲劇ト聞取リ、田園作物ノ窳劣、其他益々悪  
徳ヲ助長シツ、アリト云ハル、ハ人心、悪化、頹廢ト

敗戦思想ヲ招来スルノ虞ナキヤ否ヤ。

一 物動計画ハ輸送ノ果係ノ見込ニ難クシテ本年官ノ

確定計画樹立ノ困難ナルヲ以テ四半期毎ニ定率ノ

作成シテ居ルガ、其ノ重要ハ、  
航空機果係

2. 燃料 3. 造船 4. 食料 5. 防空用兵器

二 道中 航空機及船舶ヲ多額トセリ。

従テ次員材ノ配給モ亦此ノ二者ニ主力ヲ注ク結果

民需ハ勿論官需ニモ使用ヲ辟ケ一般民需

モ非常ナル削減ヲ行フ才。鐵銅アルニ次員材等国内

鐵物資源ノ開發ニ大重ナリ。

設備ノ移転拡充モ

a. 航空兵器官ノ方面ノ需要

b. 造船機ヲ繰上完成

c. 鐵物資源ノ開發

二 局限シ他ハ一切中止シ 殊ニ港湾道路ノ新設修築等  
ハ一切打切りトスト云フ。

右ニツキ半島トノ連絡ヲ考慮スル所。

一 石炭及電力ノ供給ハ航空機ト造船ニ対シ昨午ヨリ

六七割ヲ増配シソレ以外ニ対シテハ非常ナル削減ヲ

加フ。電力ノ供給量ハ依然衰ラズ水力ニヨリ左右

セラル、次チナルガ石炭ハ移入数量昨年ノ一割減ナ

ニ航空機、船舶製造ニ多量ヲ廻スルメ一般ニハ非

常ナル不足ナルニ付キ 民需擴張品ノ生産モ困難ト

ナレバテ 防務令社ノ如キハ一社以外ハ操業出来ナク

ナルベシ。

四月ヨリ六月迄ノ予定ニ於テモ 極力地場石炭ノ使用

ヲ図ルトシテ尚ニ割七分減少ス。東州ハ東部ハ五分

減西部ハ七分減ト云フ。

右問題ハ石炭価騰貴シテ臨時軍費ヲ以テ賄ヒキレバ  
ルベシト見ラレ。

果シテ此ノ重大ナル燃料問題ノ打開策行キ詰レルヤ

一普通鋼材ノ生産計画トシテハ主トシテ a 国内鉱山

開採 古簡易製鉄ニ依ルコト、セルハ南方輸送ノ困難

難ナル状態ヲ以テ已ヲ得サルキモ果シテ所期ノ屯數

ヲ生産シ得ベキカ。勿論、此等系ノ所謂雪連海石炭

増産、鉄回收轉用ニヨルモノ及小型鋸鋸材ニヨリ生産

スルモノアルモ大シクモニアラズト見ラレ。

特殊鋼材ハ本年ノ目標ハ昨年生産高ノ倍額ト

セルガ内地材料ノミヲ以テ生産シツアル關係上品質低下

ヲ如何ニ処理スルヤ。

普通鋼材ノ配分ハ陸海軍ニ大部分ヲ割當テ生産を拡充

シ、昨年ノ昨年ノ三分ノ二程を以テ此ノ程を以テハ

強トド補修用ヲ充タスノ程方ヲ出テサルベク積極的  
生産増強ハ望ミ難シト云フカ如何。

一 大船團的運送方法が三月初メヨリ実行セラレ又  
在来ノ木造船ヲ南方方トシ運送ニ使用スルコトニ改善  
セラレ、四月ニ入り被害船數モ減少セルハのナリ。  
然レドモ此三月迄ニ於ケル損傷甚大ナリシ爲メ鉄船ノ  
竣工進捗セルニ拘ラス。船腹減少セルニ係ニ徴用セラ  
ルモ増加シ運送量ノ運送量下ニ屬スルモノ甚減シ爲メ物  
動生産資材ノ運送甚シクニ制限セラレ、ニ至レリ。斯  
カル状態ナルニ際シ沈没船ノ引上及拿捕船ニテ現在  
使用シ得ルモノ微々タルコト並ニ木造船ノ竣工甚シク僅  
クナルコトニ付キテハ適當ナル対策果シテ無キヤ。  
一 未完成設備ニ付キテハ  
果 是非完成スベキモノ

乙、検討ノ上儘了セシムベキカ否ヲ決意スルモノ

丙、全然了止セシムモノ

ニ別チテ目下検討中ニシテ大体来年三月迄ニ完成セザル設備ハ許サレル方針ナリト云フ。然ラバ既ニ実

門中ノ企業系整備ハ始末ノ始キハ迅速ニ片附ケ置ク要アルニ拘ラズ、放任ノ次ナルハ如何ナモノカ。

一、物動計画ノ不確實ニ伴ヒ貸付金計畫モ亦確立難ナリ。元来資金ヲ出ス方ハ例ニ於テ問題視セラレツ、アル

ト莫ハ

ハ予算採算係ノ増加率過大ナルコト他ノ交戦國ニ比シテ

目立ツ所ナルカ、貸付材ハ漸減セルニ財政ヲ甚ク増大

セシムル事情如何。

又生産貸付金ノ放出又放慢ト見ラレ。即チ(1)格別

社債、銀行、信託等ノ貸付金が昨年並ハ前年並



二比之四割云々の基礎ヲナセル外 (四) 商業資本個人

資本ハ資金調整法ノ關係ナクシテ 商業界ニ流

入ル 工場設備ハ軍關係ノ支出 政府出資預金

部交付補助費ノ何レモ 膨大ナル外 前借金ノ競争

争的交付アリ 現在前借金既拂戻ノ實ニ六十億円

ニ達スル云フ 斯クテ 商業界ノ子許ニ資費

全注溢シ 今社ハ之ヲ預金ニシテ 利子ヲ収ムト云フ 實

情ハ昨年漸ク 物議ノ起トナリ 前借金ノ全廢

乃至 制限論ノ起頭ヲ見ル

前借金ノ溢出ニテ 資金調整法ノ精神ニテ 没却スルヲ

辭ケ 寧ク 戦時經濟下ノ 商業界ノ形タル 軍需形

ノ 現存制ニテ 活用スベキナリトノ 説モアリ

一 商業界ノ 原価計算 頗ル不純ニシテ 甚シク 不當ニ儲

ケ 居ルモノアリ 一方 工場ノ 労務者ハ 高給 銀ノ 支給ヲ 要ケ

然モ購買ルモノナキヲ以テ、賭博盛ニ流ル、殊ニ鐵甲工ノ間ニ  
 此ノ要習習蔓延、故更カシノ結果翌日ノ工場ハ作業ニ  
 故ヲ起スモノ類々タリトス。果シテ警戒ノ要ナキカ。  
 一、次員全吸收面ニ於ケル金融機關殊ニ都市大銀行等ノ  
 成績不振、一面資金放出ニ虚勢的ニ手張ルヲ以テ、自  
 銀貸出ヲ濫用スルノ弊ヲ釀成シ、一般遊資滞溜面ヲ  
 スル資金ノ還元持クカラス、次員全循環性ノ保全薄弱ナ  
 化シテ、甚上テンフレ思念ノ声類リナルハ、如何、無効策ナリニアラ  
 スレテ、無能ナリトセラレテハ、戦時下ノ一大中ナランカ。



舌代

(昭和十九年十月十一日田中稿)

一、戦時政策の新鮮と強化

總力を結集して勝利への一途邁進を期すべきの秋、殊に戦局の主動的体制を確立し強化し推進すべき重大轉機に際し、戦備の擴充は實に緊急を要するものあるは申す迄もない。

率直なる政治精神の發露により國民心の本質を固むるは今日爲政の大使命であり根本義である。斯くてこそ漸く頽廢に傾かんとする部面を救治して道義國民の本質を完からしめ、又漸く弛緩を見んとする局面を引き締めて烈々たる戦意を昂揚することが出来る。戦力の增強も亦茲に自ら推進を見るのである。即ち戦争遂行上の要諦たる實力の旺盛なる涵養が達成せられる。



唯我が國が戰時狀態に突入してから既に年あり。其の經過の裡には幾多拙劣な曲折も見せて來た今日である。方策の上に於て、機構の上に於て運營の上に於て將又人的配置の上に於て、思ひ切つた是正刷新を急務とするものも少くないと見られて居る。所謂此の率直なる政治精神を透徹せしむるには爲政の上に強味と新し味とが此の際缺如してはならない。

或は又心機一轉の原動力を來るべき大戰果に俟たんとする考へ方もあり、又期待され得るであろうが、此の大戰果を擧げ更に其の大戰果の後を有効に活用するのに、先づ準備の充實がなくてはなるまい。戰機は逸すべからず、準備又緊急を要する。

我が國民の戰時意識乃至皇國の興亡にかゝると云ふ時局認識には、

不幸にしてまだ充分透徹して居るとは思へない様相がある。或る者は  
氣樂な考へを持ち又或る者は他力依存の爲めに氣を揉み過ぎて居る。  
國際情勢の愈々複雑紛糾を加へた今日、外交の重要性は非常に加重さ  
れて來たことは勿論であつて、戦局の推移と相關聯して之に策應善處  
を要するが、さりとして自力打開の本質を棚に上げて、徒らに海外情勢  
の變轉に一喜一憂する他力本願的思想は篤と警戒しなければならぬ。  
斯の如き他力依存思想は、一方退嬰的な自己卑下評價思想と共に、厭  
戦又敗戦氣分を誘致することにもなる。傳ふる如くんば業に已に世の  
所謂指導者層と稱せらるゝものの中には、此の種病菌の潜在を懸念せ  
しむべき筋もありとも云ふ。恐るべきである。

須らく敢然として國民道義の振興と共に滅敵奮起の思潮を溢らせ、

一方生活安定の施策を強化し、總力を擧げて生産の増強に邁進せしむべきであり、又其の國策的構想と備へとは更に延ひて戦後に及ぼし、世界の將來に對處するの線に進まねばならぬ。然しながら先づ以て刻下の戦局に主動性を確立してかゝらねばならないのであるから、此處二三ヶ月乃至數ヶ月の間は殊に一層の馬力をかけて戦力強化措置に懸命の努力を傾注する様強力な指導が必要とせられる。



二、戦力増強緊急措置に就て (昭和十九年十月十一日田中稿)

戦力増強の推進力は此處三ヶ月乃至數ヶ月の處殊に重大性を有すること前述の通りとして見たならば、朝野の總力は當然之が完遂に結集せらるゝであらうし、軍、官、民夫々の職場に於て最善の努力が拂はれる次第であつて、従て其の間綜合的企畫の上より又個別的措置に就て刷新又推進さるべきものは速かに現實に取扱はれねばならぬ。試みに經濟界から出て來る着想の中から數個の事項を拾ひ上げて見ると次の様なことがある。

一、産業人の戦意鼓舞。．．．之は必ずしも産業人に限つたことではなく、素より一億の中一人でも苟も情眼を貧る者があつてはならぬ。果してどの程度に戦意昂揚が出來て居るかを知らるには、例へば



南方諸島守備の我が將兵及同胞が烈々全員打ち死したとの発表がどの程度に一般民衆の神經に反響を與へたかを注視するの必要がある。

志氣を鼓舞するには最早單なる講演などでは效き目が少ない。組織を通し膝を交へての國情國策の透徹の爲めに政府が熱意を示されることは大に意義が深い所であつて、日本人は必ず之について來る。重ねて云ふ、殊に此の際産業人の戰意昂揚は最も急務とする所である。

一、指導者層の奮起。 . . . 之も一般的に云へることであるが、殊に産業指導者が挺身的精神を一段と發揮して、此の處暫らくは家庭生活を犠牲にし、工員と寢食を共にして朝夕指導鞭撻の任に當ることになれば生産能率は顯著なる向上を示すであろう。現に社長自ら工



員と共に職場に起臥し全工具の信服する所となつて居ると云ふ事例も傳へられて居る。

一、軍需工場監督官の自肅。．．．從來軍管理工場等に於て監督官が矢鱈に形式に囚はれた監督權を振り廻はし、勞務者に對しては勿論、上級職員、技術員等に對しても兎角彼是と干涉、束縛がましい見當違ひの口出しをするので、其の間反感、衝突が頻發して能率を阻害すると云ふ噂が少くない。此の處長くとは云はぬが三ヶ月許り所謂監督行政なるものを棚に上げて、決戦体制の充實迄は全力を擧げて工場を世話し、之に協力すると云ふ氣分一點張りになつて欲しいものであるとの聲は聞き捨てにはされまい。

一、軍隊の生産協力。．．．軍隊をして其の訓練の餘暇を活用して附近

の鑛山、工場に於ける生産に加勢せしむると云ふ工夫は出来な  
いものか。蓋し斯くすることに依て(イ)現實には勞力の補充となつて生産  
を増強し、(ロ)生産は即ち戦争なりとの精神を植え付けると云ふ効果  
が期待される。

世俗の間には、戦争は唯銃砲や飛行機を動かすことに依て決する  
かの如き考へが兎角行はれる。之は判りきつた間違ひではあるが實  
際上生産面の氣分がピンと來ない傾がある。それであるから全く通  
俗的なやり方ではあるが、軍隊で訓練や演習の上にトラツクや牽引  
車等を使ふ場合を實用に利用してはどうか。即ち實際必要上甲地か  
ら乙地へ運ばなくてはならぬ物を運んでやつて、旁演習訓練を積ま  
しむることとしたらどうかと云ふにある。

改訂を要する。

一、実績主義の再検討。．．．元來平時から戦時への移行には諸般の事態に大變化が起り、又戦時体制の推移の中にも刻々に重點と輕重は變はつて行く。ところが從來の因縁とか關聯する方面の複雑せる事情等からして、所謂実績によつて措置することが流行した。之に依て關係當業者の勝手な文句も一應抑へられると云ふのであるが、一面此の実績主義は實在の現情に即しないで惡平等に陥ると云ふ弊を伴ふのである。

例へば過去の実績に依て資材の配給を受けた工場の中で、今は之を使用するに足るの能率を持たないため案外不消化資材を包藏するところか<sup>で</sup>發生する。そうかと思へば一方には戦争以來生産能力の著増した工場に過去の実績による過少の資材しか配給されないとな

最近の事情は、所謂買賤の横行、買賤の横行は醸成せられて生産力の適正な活用が不圓滑になり、買賤の横行は醸成せられる。

近來資金調整法の許可範囲にもかゝらない様な小資本の妙な會社が出来て來た。例へば航空機部分品株式會社など云ふのがあるが、其の實質は製作するでも何でもなく、闇物資賣買の一種のプロールである。果してどんなものか。

物ごとを實績主義で簡單にかたづけ様とする考へ方は再検討を要する。

一、區々感情の打破。．．．大戦下の今日思ひも寄らぬことではある